

くらしの会と 環境と互助

くらしの会について

昭和42年(1967年)に和光市で最初に産声をあげた消費者団体です。

創設以来“健全な生活の確立”をめざし、消費者としての権利を守り、消費生活の改善、向上をモットーに活動してきました。

主な活動として、消費生活展・市民まつりへの参加、視察研修、斡旋物資の販売、不用品交換会の開催による環境を考えた製品の普及への取り組み等を行っています。和光市コミュニティ協議会の構成団体としても活動しています。

和光市くらしの会 活動の基本方針

1

自然を大切に

2

安全性の追求

3

合理的なくらし

環境への取り組み

牛乳パック入りトイレットペーパー、合成酸化防止剤不使用の化粧石けん、再生紙100%ティッシュなどの環境や、からだにやさしい商品の斡旋販売を創設時から続けています。

今でこそゴミ袋は白の半透明のものが主流ですが、当時は、黒のゴミ袋がほとんどの中、炭酸カルシウム入りゴミ袋を独自に作り、環境への影響を訴え続けました（現在は取扱なし）。

販売しているあっせん物資



12 つくる責任
つかう責任



13 気候変動に
具体的な対策を



普段は 和光市役所6階の
市民活動推進課内でお買い求めいただけます！

互助の取り組み

市の審議会等の委員活動

くらしの会は、地域活動や行政の事業に関わる
様々な審議会等に委員として参加。
より良い地域づくりを目指しています。

くらしの会役員が参加している外部委員等

団体・審議会名	委員数
和光市コミュニティ協議会	7名
和光市消費者団体連絡会	2名
和光市廃棄物減量等推進審議会	1名

PICK UP!

コミュニティ協議会

人との「ふれあい」を大切にする
ことで住みよい環境づくりを目指
します。5つの委員会と1つの実
行委員会で活動しています。

活動の一部をご紹介します！

あいさつ運動(青少年問題対策委員会)

明るく元気に登校できる環境づくりのため、小・中学校の通学路
で子どもたちの登校を見守り、声掛けを行っています。



つるし雛教室(美しいまちづくり推進委員会)

良縁・長寿・無病息災を願って軒先などに飾られる「つるし雛」。
地域をあたたく彩る縁起物です。年に数回、幅広い年代が集まる
制作教室を開催しています。



わこうちかるた体験(市民ふれあい委員会) わこう郷土かるた「わ
こうちかるた」を通じて、子ども達と触れ合うことにより、地
域の子ども達との交流を深め、地域の見守りにつなげる活動を行っ
ています。



新倉に伝わる七夕飾り「まこも馬」



【写真提供：和光新聞】

【本多家の庭先に飾られた七夕飾りの様子】

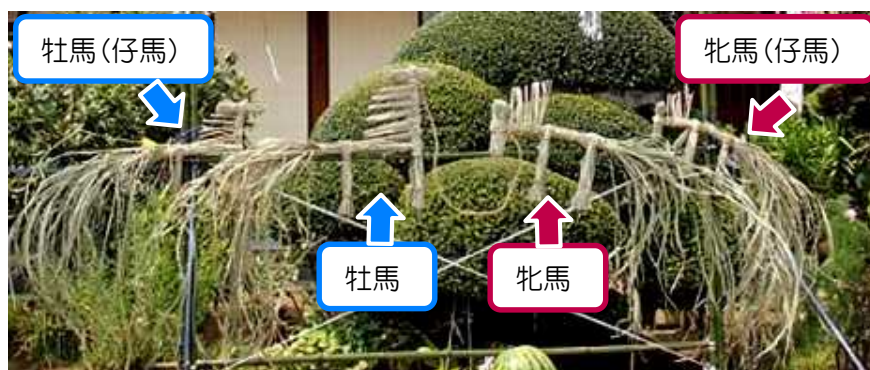
向かって左側の頭を高く上げているほうが牡馬ぼばで、右側の頭を下げているほうが牝馬ひんばです。大きな馬の後ろに飾られた一回り小さい馬は、仔馬こうまです。大人の馬は七夕が終わると厄落として川に流してしましますが、仔馬こうまは来年のまこも馬づくりのために残しておくそうです。



「七夕」と言えば、7月7日に短冊や吹流しなどを笹竹に飾り、星に願いをかけることが一般的ですが、埼玉県をはじめとする東京都、千葉県など関東の各地では、馬の飾りを作って供える習慣がありました。

「七夕馬（たなばたうま）」とも呼ばれるこの馬は、夏の水田や河川、沼などに生い茂る「真菰（まこも）」を編んで作られているため「真菰馬（まこもうま）」と言われます。

埼玉県南西部から南東部、お隣の板橋区などでは、旧暦の七夕に、庭に笹飾りを立て



て、軒下^{ほば}に牡馬と牝馬^{ひんば}の2頭を向かい合わせに飾り、その手前に畑で採れたスイカやウリ、トマト、キュウリ、カボチャ、トウモロコシなどの旬



の野菜などと一緒に、おまんじゅうも蓑に入れて、五穀豊穰を祈願してお供えをしました。

和光市でも昭和30年代ごろまでは、多くの家でまこも馬を作り、軒先に飾っている風景が見られたそうです。以前は、水田の用水路や貯水池でたくさん採れた真菰ですが、水田が減り真菰も減ると、このまこも馬も姿を消していきました。



この写真のまこも馬を作った、和光市くらしの会の会員である本多さんは、地域の伝統行事である七夕のまこも馬づくりを子どもたちに伝えるため、地域の子ども会での伝承活動も行っています。